

『食物アレルギー診療ガイドライン 2021』第2刷、電子書籍における変更箇所

本書の第1刷において、記載内容に変更の必要が生じたので、第2刷、電子書籍では以下のように変更いたします。

2021年12月8日現在

◎第8章「診断と検査」(p93) 本文5、6行目

製造会社業者が変更されたこと、およびキットのバージョンアップに伴い、以下のように変更します。

(変更前)マストイムノシステムズ IV®(日立化成)

↓

(変更後)マストイムノシステムズ IV®および V®(ミナリスメディカル)

◎第12-10章「魚類アレルギー」(p185、p187)

第1刷で引用された参考文献15)(Kobayashi Y, et al: 2016)では「マグロ以外の魚種で背側のほうがパルブアルブミンの量が多い」ことを報告しており、本文で解説された「背側より腹側の筋肉に含有量が多い」ことについて述べられた以下の文献に変更します。

(変更前)

15)Kobayashi Y, Yang T, Yu CT, et al. Quantification of major allergen parvalbumin in 22 species of fish by SDS-PAGE. Food Chem. 2016;194:345-53.

↓

(変更後)

15)Lim DL, Neo KH, Goh DL, et al. Missing parvalbumin: Implications in diagnostic testing for tuna allergy. J Allergy Clin Immunol. 2005;115:874-5.

以上